



# 明海大学 浦安キャンパス 同窓会 報

第18号  
2012.12  
December

第一期生はこう見る!

## 「明海大の過去・現在・未来」

2012年11月、本学の第一期生である北原淳同窓会会長の呼びかけで、同期の空閑利奈氏、小島信也氏の3氏が、浦安キャンパスで久し振りに顔を合わせた。かつて図書館だったという事務室で再会を果たした3氏は、その場でしばし旧交を温めたあと、霜月の冷たい雨が降る中、学内を巡って在学当時の思い出に浸ったり、様変わりしたキャンパスや周辺の様子に驚いたり大いに盛り上がった。その後「学生がよく集まっていた」という学生ホールの一隅に腰を下ろし、卒業20年のOB・OGとして、明海大の過去から現在・未来について語り合った。

### 【座談会】

### 明海大の フロンティア精神

長く伝えて  
我が子に誇れる大学に



### 【何もないところから始まった大学生活】

北原同窓会会長（以下北原） 僕たち第一期生が卒業して早いもので20年が経ちました。この節目に、明海大の過去を振り返りながら、現在を見つめ未来を考えたいと思ひ、今日は社会で大いに活躍されているお二人にも来ていただきました。

空閑氏（以下空閑） 卒業後、明海大学の名を耳にする懐かしい気はしていたけれど、来るのは20年ぶり。街も大学もあまりに変わっていてビックリ。  
小島氏（以下小島） 当時は建物もこの講義棟と研究棟だけ。今、イトーヨーカドーの建っている辺りから向こうは野原だった。



北原 淳

1992年外国語学部日本語学科卒業  
現在 株式会社企画部イベントディレクター  
2004年より明海大学同窓会会長

空閑 周りに何もなければ、海からの風が吹き抜けて、とにかく寒かった。

北原 合格発表も、駅側のテニスコートの辺りの原っぱに、コンパネに受験番号が貼り出されただけ。

僕は陸上競技部だったけれど、(グラウンドで)着替えをしていたら、フジテレビが取材に来て「なぜグラウンドで着替えているんですか?」って聞かれて「部屋がないから」って答えたよ。そうしたら、部室のない大学、とテレビで紹介された。

小島 近くに遊ぶところもなかったよね。講義の合間には、テニスをしたり、アサリを探りに行ったりしたこともあった。

北原 何もかも自分たちで決めたり作ったりしなくちゃならなかったけれど、その分自由でもあったよね。

### 「言葉を学ぶのではなく、その国の文化を学ぶための外国語学部」

北原 利奈ちゃんは英米語学科で、帰国子女だよ。利奈ちゃんたちが作っていた帰国子女のグループは何かまぶしかったな。

空閑 私は高校からアメリカに行って、大学で日本に帰って来たから、日本の青春時代の価値観をシェアする仲間は大学に行かなければ得られなかったと思う。

小島 僕は中国語学科だけど、人数も少なくすごく地味だった。よく覚えているのは、中山時子教授。厳しかったけれど「勉強しなさい」って言って、大泉学園の自宅で勉強会をしてくれたり、中国のお菓子を食べて食べさせてくれたり。同期の仲間の中には中国語の教師になった人もいて、今でも連絡を取り合っている。

地方の同窓生の交流を深めよう

2012年度 地区連絡会レポート

東海地区連絡会

2012年10月21日、静岡市内のホテルにて、東海地区連絡会が開催された。東海地区連絡会代表の岩田保宏さん(経済学科3期)は、乾杯を終え、恩師や旧友と再会を喜び合う同窓生を眺めながら、活動について語ってくれた。



「東海地区では、形式にこだわらないアットホームな形での同窓会を開催することが多かったのですが、今年度は参加人数との兼ね合いもあって、教育後援会主催の東海地区懇談会に合わせての開催とさせていただきます。参加した同窓生は私を含めて5名、家族を伴っての参加がほとんどで、家族ぐるみで一年ぶりの再会を喜び合えることに、本当に感謝しています」

またこの日、東京から駆けつけた同窓会副会長の武藤俊一さんは、今後の地区連絡会について、「地区主導でどんどんいろんなアイデアを出してもらい、本部と地区とで同窓会を一層盛り上げていきたいですね」と語った。

近畿地区連絡会

2012年11月11日、大阪市内のラマダホテル大阪で近畿地区連絡会が行われた。今回は4名の同窓生とその家族、同窓会役員の計7名が集い、学生時代の話や近況を語り合った。教育後援会が主催する地区教育懇談会に合わせて会が催されたため、お世話になった教授や職員たちとの懐かしい再会にみな終始笑顔。

近畿地区連絡会の小林重紀代表は、「今回は懐かしい顔ぶれだけでなく、4月に卒業したばかりの同窓生も参加してくれました。自分が卒業してから20年の開きがある親子ほど離れた若い世代が参加してくれ、うれしく思います。毎回参加しているという4期生、6期生の同窓生同士の山岸夫妻は、「毎年参加させていただき、こうして同窓生に会えるのを楽しみにしています」と話してくれました。



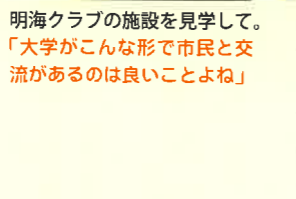
▲安井学長とともに



外の風景を見ながら。「今のジョナサンの場所にはパンが食べ放題のレストランがあったよね」



大講義室の椅子に座って。「当時はこの教室が一番大きかった。全然変わらない」「ここはトレンディドラマの舞台にもなったことがあった。」



明海クラブの施設を見学して。「大学がこんな形で市民と交流があるのは良いことだね」



小島 信也

1992年外国語学部中国語学科卒。現在、広告関連企業勤務

「わが子を行かせたいと思う大学に」北原 卒業して20年経って、やっと大学時代を振り返る余裕が出てきた。僕の子どもは今、小学生で、あと何年かすると大学を考える時期になる。その時に明海大を「パパの出た大学！」って誇れる大学にしたいと思うんだ。空閑 私は、卒業してからも、不動産学部やホスピタリティ・ツーリズム学部などが、まだ他にない時期にできたとか、市民に開放型の大学とか聞く度に、他に先駆けて時代を作っていくような「プロンティア精神」を持った良い大学

を出たという気がしていた。小島 明海大の名前を見たたり聞いたりすると、やっぱりうれしいよ。空閑 建学の精神にも「創造性」っていうけれど、ないものを開拓していくという取り組みができる大学であるということとを、在学生のみならず卒業後でも開拓して欲しい。小島 明海大のプロンティア精神は、長く後輩たちにも伝えたいし、引き継いでいってほしいね。北原 僕は今、同窓会の会長をやっているんだけど、今後5年で明海大を「自分たちの子どもを入れたい大学」にするための取り組みを、同窓会としてやりたいと思っています。

今日、お二人と一緒に学内を回りながらあれこれ話をしたことで、同窓会が何をやらなくてはいけないかが見えてきた気がします。どうもありがとうございます。

学生ホールの壁にかかった世界時計を見つけて。「この世界時計は僕ら一期生が卒業記念として贈ったものだ」「日本時間は「東京」じゃなく「浦安」になってる」「まだ動いているんだ」



様変わりした周囲の風景に。「あそこには建物は全然なかった」「その第2グラウンドもただの原っぱだったよね」「海からの風が直接吹きつけて、とにかく寒かった」

今は使われていないポケベルを見ながら。「教員はみなこのポケベルを持っていた。ここにポケベルがないと「先生は在室」って意味だった」



エントランスに飾られるオブジェを見て。「これは僕らの時からあったよね」

第一期生の「浦安キャンパスツアー」卒業した20年前とは大きく変わった浦安キャンパス。学内を歩きながら、浦安太郎が状態になった3氏のつばやきは…。

北原 OBはいなかったけれど、僕ら一期生は就職には困らなかったね。バブル全盛期だったし、一期生ということもあって熱心に進路指導していただいた。空閑 私も、在学中から日立でアルバイトして、そのまま就職したから、就職活動らしいものはあまりしなかった。小島 僕は、大学の先輩がいなかったから、反対に誰か頼りたかった。先輩！って言った。一期生ということでも何もかも自分でやらなければならなかったせいか、社会に出て、たかましかったかも。北原 今は就職氷河期でしょう。明海大は今も就職指導に熱心だけど、学生がそれについて行けてない気がする。ちよつと元気がないし、気概もあまり感

「敷かれたレールを走るより、自らレールを敷いてゆく」北原 僕は日本語学科だった。今ほどではないけれど、台湾や中国からの留学生が日本語を学びに来ていた。空閑 私は、日本語学科と中国語学科があるっていうのは珍しいし、すごくびっくりしたな。北原 うちの外国語学部って、昔からある文学部とか語学系の学部と違って「言葉コミュニケーションのために使いたいよ」ということを柱にしていた。小島 中山先生も「言葉を学ぶというのは文化・コミュニケーションを学ぶということ」っておっしゃっていた。中国料理を作った食べさせてくれたのも中国の文化を学ばせるためだったと思う。今盛んに言われているコミュニケーション力を、当時すでに教育として取り入れていたんだね。



空閑 利奈

1992年外国語学部英米語学科卒。現在、プレジャーガーデン(株)代表取締役

じない。これは明海の学生だけじゃないかもしれないけれど。小島 僕のところにも一回だけ(後輩が)訪ねて来たけれど、言葉使いからして就職を希望しているという感じがしなかったな。行儀は良かったけれど。(学生ホールを見て)こういうところを見るとさ、いだよ。学生が汚さないだろうね。空閑 一期生は、上級生がいなくてもこの大学に入ることを選んだ人たちだから、もともと一人でもやっていける大人っぽい人が多かったと思う。小島 僕も、他の大学も受かったけどここに選んだのは「新設大学の一期生」というのが理由。マスコミ志望だったので、勉強とかを飛び越えて、ここで一から始めたことが、社会に出て役に立つだろうって思ったから。空閑 本人だけでなくその家族も、新設大学という、伝統も先輩もない大学に行かせるということに抵抗がない人たちが多くて、それが私たちの生き方にも反映しているんじゃないかな?北原 みな、敷かれたレールを走るより、レールを自分たちで敷いていくような人が多かったよね。実際、社会に出てみると、敷かれたレールはなくても問題なかったなって思う。

MEIKAI TOPICS

2012年度代議員会

2012/5/26

5月26日(土)、浦安キャンパスで2012年度同窓会代議員会が開催され、代議員45名と教職員15名が出席した。



まず始めに同窓会の北原淳会長と安井利一学長が挨拶。引き続き、同窓会の事業報告や決算報告、新役員選出、新年度事業計画、予算案などが審議された。また、同窓会25周年に向けた中長期計画の説明が北原会長よりあり、2012年度はそのスタートの年にしたいと語った。

一日も早く元通りになるよう支援 東日本大震災被災地復興支援活動

2012/8/23~26

11月3日、浦安キャンパスで「東日本大震災被災地復興支援活動報告会」が行われた。被災地へのボランティア活動は2回目。今年は8月23日、26日、学生11名と教職員5名が、岩手県釜石市や宮古市などで活動を行った。



参加した東北出身の赤池君(経済学科3年)は、「報道されることが減り、復興は進んでいるのか?と心配していたが、まだまだ手が足りないと感じた。一日も早い復興のため、また参加したい」と、母親の勧めで参加したという篠崎さん(英米語学科2年)は、「作業後、「明海大さんほどよくやってくれる人はいない」と言われ、誇りを感じました」と話してく

明海大学をよりよくするために 学友会サマーキャンプ

2012/9/4~5

学生同士、また学生と教職員が親交を深め、大学の発展や学生生活の向上を図ることを目的に毎年開催されている「サマーキャンプ」が群馬県水上温泉で行われた。学生約200名と教職員約200名が参加し、「明海大学をよりよくするために今できること」をメインテーマに、熱心な議論が交わされた。



文化系団体の創意工夫が つまった発表の場 明海祭参加団体表彰

2012/11/4

11月4日、明海祭のファイナルパーティー内で、浦安キャンパス同窓会による明海祭参加団体表彰が行われた。参加団体の発表や企画の文化性や独自性、また明海祭活性化への寄与などを総合的に評価し、毎年表彰している。

最優秀賞に輝いた「素人En劇集団明海」の川島智己さんは、「今年は新人が中心だったので、驚きました。公演が始まったからお客さんの反応やアンケートをもとに手直ししました。来年は内容だけでなく、セットなどにも力を入れてお客さんを楽しませたいです」。

優秀賞「茶道部」の三村真美さんは「紅葉狩りをテーマにお茶会を開催し、先生のご指導の下、装飾のためのミニチュアを自分で作り上げました。来年も受賞目指してがんばります」、同窓会賞「吹奏楽部」の鈴木歩美さんは、「お客さんを喜ばせることを第一に考え、また、学生の内輪だけの盛り上がりにならないよう選曲にも配慮しました。表彰は意外で驚きましたがうれしかったです」とそれぞれ喜びのコメントを寄せてくれた。



# 各支部からのレポート

## 在学生への就職講演会を開催

経済学科支部 丹羽響子

経済学科支部では、在学生に向けた就職支援として、5月と10月に就職講演会を開催しました。在学生の延長線上にいる我々卒業生が、等身大の言葉で「仕事」を紹介し、様々な職業への理解と関心を高めてもらうことを目的として実施しました。

1回目は、エンターテインメント関連事業会社社長の鮫島氏が、集まった約80名の学生たちとの一問一答形式で、学生時代の事から現在までの経験や実績、その時々的心情などを語りました。

2回目は、会社の人事部に勤めている斎藤氏が講演しました。講演会、Q&A個別相談会、仕事紹介&質問会と、3時限にわたって実施し、多くの学生が耳を傾け、質問をしていました。

今回の就職講演で、多くの学生たちが持つ将来への不安を感じました。経済学科支部では、今後も学生支援課(就職支援担当)と連携しながら、在学生が卒業生と気軽に話し、将来への様々な可能性を考える機会を作っていく予定です。



講演会の様子

## 多彩な事業を展開していきます

不動産学部支部「緑風会」 松島孝夫

明海大学不動産学部の卒業生で構成する支部の「緑風会」は、1996年3月の設立から多くの方々の支援のもと16年目を迎えることができました。「緑風会」という名前には、日本の街づくりが我々卒業生によって緑豊かで心地よい風が吹く街になるようにという願いと、明海大学の所在する新浦安地区が20世紀の街づくりにおける、そのひとつの具現化した街として、その地で我々卒業生が学んだ証、という意味が込められています。

現在、緑風会では同窓会報「R.E.A. News」の発行、資格取得を支援する「緑風塾」や明海祭における「無料不動産相談会」など、多彩な事業を展開しています。今後とも皆様ご支援のほど、よろしくお願いたします。



## 4年目を迎えて

ホスピタリティ・ツーリズム学部支部「明翔会」 山下純八

明翔会も今年度で4年目を迎え、卒業生も500名を突破しました。卒業生同士のパイプ役として活動し、毎年明翔会パーティーを行ってきました。今年度も2013年の2月にパーティーを予定しており、今回の目的としては、これまでに『プラスα』を盛り込んだ会にしたいと考えています。

同窓会は卒業生を対象とし運営している団体であることは明確ですが、その卒業生を輩出するためには第一に、ホスピタリティ・ツーリズム学部に入学会してはなりません。その点において学部と同窓会として何かしらの支援ができればと考えてきたことにより、今回のパーティーを企画しています。

来年度は明翔会が5周年を迎え、さらなる発展を見据える必要があります。今後も学部、そして大学全体を視野に入れ活動できたらと思っています。



## 創設5年目、広がっています

日本語学科支部 立花健一

日本語学科同窓会は2012年11月3日、新浦安のオリエンタルホテル東京ベイにおいて同窓会パーティーを開催いたしました。パーティーも回を重ねること4回目。今年は、事前の予想を倍近く上回る皆様から参加表明をいただき、急遽会場変更を強いられるという事態に。そんなうれしいハプニングも乗り越え、最終的な参加者は会員、ご家族、教職員の皆様を含めて126名に上り、賑やかな会になりました。今年は1期の方々から、この春に卒業した「1年生会員」の方々も多く出席されました。毎回出席の方、今回が初めての方も多く、出席者数はもちろんのこと、出席される方々の顔ぶれを見ても「広がり」を実感する機会でした。柳澤教授が出席者のお子さんと遊んでいらっしやる姿が印象的でした。



## 明英7年目、皆様に支えられて

英米語学科支部「明英」 志村典英

春の風物詩である「明英親睦パーティー」を、本年度も2012年6月23日、浦安ブライhtonホテルにて開催しました。昨年同様、50名を上回る皆様にお集まりいただき、懐かしい級友や恩師との近況報告、情報交換など、楽しい時を過ごすことができました。

12月1日には「効果的な授業創りを目指して」というテーマで、「明英英語教育セミナー」を開催し、明海大学大学院応用言語学研究所、東山安子非常勤講師より「教室の中の異文化コミュニケーション」に関し、ご講演いただきました。参加者による活発な意見交換が行われ、実りのあるセミナーとなりました。

また、クリスマスには温かいメッセージやデザインとともに英米語学科卒業生へ、恒例のクリスマスカードをお届けしました。

そして今年度も「明英 教育実習事前相談会」を2013年3月9日に開催予定です。この企画は我々OB・OGが教育実習を目前に控えた学部生をサポートし連携を図ることが主たる目的の一つです。

最後に、今年度末には1年間の活動報告を中心としたニュースレターの配信を予定しています。多くの方々に支えられた7年間でしたが、今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



## 中国語学科支部の年間行事

中国語学科支部 川島信一

中国語学科同窓会では、例年通り、3つの行事に絞って活動を行っています。

●親睦パーティー 昨年度は会場を浦安から都内へ変更したこともあり、例年になく盛況ぶりでした。今年度は、2013年2月9日(土)に開催いたします。多くの方にご参加いただけるようたくさんの企画を予定しております。ご参加をお待ちしております。

●卒業生懇談会 新卒企業説明会が一段落する1月に、就職活動生を対象にして多方面で活躍している卒業生が講演を行います。私が就職した時も今も厳しさは変わりませんが、1人でも希望の仕事に就けるようyellを送ります。

●HSK支援 生涯学習の支援を目的として、卒業後にHSKを受験された方に受験費用の一部を支援しておりますのでぜひご活用ください。

◆詳しくは明海大学中国語学科同窓会HPをご覧ください



# 2012年度 同窓会パーティー

## 仲間と、恩師との再会に笑顔

11月3日(土)、「明海祭」開催日に、レストラン「ニューマリナズ」にて浦安キャンパス同窓会パーティーが開催され、今年も多く参加者が旧交を温めた。会は、北原淳同窓会会長の「明海祭も今年で25回目の開催となりました。大学のますますの発展にみんなで協力していきたいでしょう」の挨拶で始まり、佐々木康史副学長は「お子さん連れでの参加も多く、うれしく思います。今日一日を楽しんで過ごしてください」とスピーチ。「浦安キャンパス同窓会が、会長の強いリーダーシップで、今後ますます発展することを期待します」と中城康彦不動産学部長の音頭で乾杯した。

今年は、パーティーの形式を変更し、参加者に明海祭の模擬店で利用できるチケット1000円分を配布。これにより、同窓生に明海祭をより楽しんでもらえるだけでなく、同窓会が負担したチケット代金が学生たちを支援することに繋がると、という一石二鳥のシステムとなった。

パーティーには多くの教職員も参加し、同窓生たちと思い出話に花を咲かせていた。初めて同窓会パーティーに出席したという坪井南さんは、「卒業して2年ですが、とても懐かしい感じがします。この後は、所属していたサー



中城学部長



北原会長

平松健太郎副会長は「同窓生たちにも40代が増え、社会的な役割も大きくなってきた。同窓会の活動も今後ますます広がっていきたくて、今後の展望を話した。今年度はパーティー終了後も、会場を16時まで休憩スペースとして開放。子ども連れの参加者は「久しぶりに再会した友人と、話す場所ができて良かったです。子連れだと、ゆっくりできる場所がないので助かります」と話していた。今、同窓会では「サポーター」を募集中。役員は難しくとも、できる範囲で何か大学の役に立ちたいという会員が増えていくことから、どのように関わっていく機会を作れるか、パーティー終了後、会場に残って意見交換を行う参加者の姿が見られた。

クルを見に行きます」とと久しぶりの大学に感慨深げ。また、同窓会オリジナルのクオカードが当たる抽選会では、当選した経済学科の卒業生は「うれしいです。毎年、同窓会で友人と一年に一度の再会をしています」、不動産学科の卒業生は「パーティーではおいしい食事がいただけると聞いて、サークルの友人と初めて参加しました」と話してくれました。



佐々木副学長

## おめでとうございます

クオカード抽選会



パパと一緒にごきげん。親子で参加



グループ全員、クオカードに当選!

## 参加した先生方

\*順不同・敬称略

佐々木康史副学長、小泉允園名誉教授【外国語学部】市川桃子、中川仁、西川寛之、原和也、桑田良望、【経済学科】下田直樹学部長、工藤宜延、渡辺真知子、宮崎毅、岡村龍輝、佐藤一磨、高山大輔、吉田敦、李燕【不動産学部】中城康彦学部長、林亜夫、福島隆【ホスピタリティ・ツーリズム学部】草野健学部長、白野伊津夫【総合教育センター】徳田恵【事務部】地下和弘、中山浩之、近江彰

# 恩師からのたより



卒業生の皆様におかれましてはお元氣でご活躍のことと存じます。私は1995年に明海大学に着任し、翌年から今日に至るまで「環境経済論」を担当しています。履修者は多いときで300名を超えており(2006の大教室でした)、累計で3千人ほどの経済学部生に履修していただきました。

テレビのニュースで街頭インタビューが放映されることがあります。新橋などの街角でサラリーマンやOLが呼び止められ、記者の質問に答える、あのシーンです。実は環境経済論を教えるに当たって私が目標にしてきたことは、受講生がやがて卒業して社会人になったとき街頭インタビューを受けて的確に答えられるようになることでした。良い応答ができるテレビに映ります。同級生も私たち教職員もそれを見て、「ワナつかしい」となる、それを狙ってきたのです。今のところ、他学部のO先生が新橋で街頭インタビューにお答えになっていたことしか確認が取れていません。

特にインタビュー対策を想定して力を入れてきたのが「環境税」です。CO<sub>2</sub>の排出を抑制する国際約束を守るためには、環境税あるいは炭素税という税がいつか導入されます。石油や石炭などの化石燃料を購入した人が負担することになるので、消費税のように一般の人への直接の大きな負担はありません。しかし発電所やガス会社を通じて、物品の価格を通じて、やがて市民にも企業にも負担がのしかかります。

学生時代なら「税金は嫌いだ」とか「知らない、関係ないし」とか言って片付けて済んでいたでしょう。しかしそんな答えをしていたのではテレビに映してもらえません！賛成でも反対でもよいので自分の意見を持ち、短く的確に答えること、そのために日頃から時事ニュースのおおもとにある真の問題を知識として仕入れておくこと、そのきっかけになればと思って講義をしてきました。

環境税はしかし、私の予想に反してほとんど議論されることなく2012年の10月1日から導入されました。長年ヤマをかけたのに外れてしまいました。次は何でしょうか。原発でしょうか。原発を続けるべきか廃止するべきか、皆さん街頭インタビューに備えてぜひ答えを考えておいてください。環境経済論を履修した方は、古いノートに材料が見つかるかもしれません。テレビのニュースでお会いできることを楽しみにしています！

## 街頭インタビュー、受けましたか？

明海大学・経済学部教授 山下 東子

## 会計報告

セキュリティの関係上、ホームページには公開いたしません

# 利用しよう コミュニティサポート事業活用レポート

APR.8 - MAY.20.2012 浦安市今川球場

参加人数 21名

### 明海大OBウィナーズ

震災の影響により1年間大会は休止でしたが、本年より市民大会が再開され、約1年半ぶりに試合を行いました。4月8日は開会式への参加のみで、二部リーグの試合は4月15日から。初戦は対ベイシティDJーズ戦、一昨年秋より練習を一度も行ってないなか、内山・南野継投で5対1で勝利。

第2戦は4月22日の対サンライズ戦。相手好投手に抑え込まれ0対8の1安打完封負け、しかもコールド負けの惨敗でした。これにより敗者復活リーグに回り、迎えた5月13日の第3戦は対富士見会フェニックス。綾部の快投により8対0のコールド勝ち、5月20日は勝てばダブルヘッダーとなる第4戦は打ち合いの末10対8で勝利。休憩を挟んだ第5戦は途中まで接戦になるも息切れして3対9で敗戦。毎試合12、13人の出席でその時々でメンバーが替わり、多くのメンバーが参加できました。



SEP.2.2012 稲毛海浜公園

参加人数 30名

### ラグビー部OB・現役交流会

9月2日(日)、稲毛海浜公園で、ラグビー部OB・現役交流会を実施しました。これは毎年9月、ラグビー部OB会が主体となり、OBと現役の交流を図るとともに、秋の公式戦を控える現役の激励も兼ねて行っているもの。今年は天候の影響でできなかったイベントもありましたが、恒例のBBQでは開始時の雨が嘘のように晴れ、大盛り上がりとなりました。OB・OGの家族や現役が一致団結。炭に火をつけ、親睦を図りました。

乾杯を挟み、主将の伊藤君から夏合宿の報告や公式戦に向けての意気込みが語られ、少ない部員でも他大学と合同練習を組み、試合に近い形で練習することで、部員のモチベーション向上・維持に努めた結果、まとまりのあるチームができたこと力強い報告がありました。終始和やかな雰囲気が進み、OBも日ごろの疲れを癒せた良い交流会でした。



SEP.21.2012 マイステイズ新浦安

参加人数 13名

### 陸上競技部OB・OG会

7月21日(土)に明海大学陸上競技部OB・OG会第3回総会を行いました。OB・OG13名と、顧問である陸上競技部・岡野進先生が参加した総会では、第2期(2012~2013年度)役員改正・会計報告についての承認決議、陸上競技部現役生への支援について、また同会の参加者増員について等話し合いました。その後の懇親会では現役生も参加し、それぞれの現況報告や思い出話などで盛り上がりました。OBで現在も競技を続けている者から、東日本実業団で入賞したとの報告もありました。立食形式のせいも、世代を超えて皆が楽しめた会であったと思います。



MAY.13.2012 マルチスタジオ&新浦安のイタリアンレストラン

参加人数 21名

### マーリンズ



明海大学のマルチルームで現役生とOGとOGの子どもたちとチアをしました。普段体を動かしていないOGには辛かったが、暑くもなく寒くもなく、とても心地よい環境の中で思いっきり体を動かすことができ、心も体も元気いっぱいになりました。

何より、みんなチアが大好き、マーリンズが大好きなので笑顔で楽しく大勢でダンスを踊ったり、スタンツをしたり、ヨガをしたりと充実した時間を送りました。

チアをした後は、新浦安駅前にあるイタリアンレストランに移動してOG総会とランチ会を行いました。普段、仕事や育児などで、なかなか集まることのできないOGが顔を合わせることができ、ランチ会も楽しい時間となりました。

OG総会では今後のOG会やマーリンズについて話し合いました。これからのマーリンズの活動に生かしていきたいと思えます。

### コミュニティサポート事業 サポート条件

- ① 原則として会員が10人以上で集まるコミュニティであること。
  - ② 支援対象者は、会員のみ。
  - ③ パーティーや活動終了後、レポートと参加者名簿を提出すること。
  - ④ レポート・名簿ともに既定のフォーマットに記入。
  - ⑤ レポートは、HPや会報に掲載させていただく可能性がります。
  - ⑥ 参加者名簿は、本会のプライバシーポリシーに準じて活用いたします。
  - ⑦ 宗教や政治活動を目的とするコミュニティは対象外。
  - ⑧ 支援は年度内1回のみ。(同じ人が年2回受けることはできません)
- 【支援金】  
3000円/人  
\*上限60000円(20人相当)  
例)参加者15人↓45000円支援  
参加者25人↓60000円支援
- 【利用の流れ】  
① 申込：同窓会ホームページの記載に従い、事務局へ申し込み  
② 承認：理事会の承認を受ける  
③ 支援確定：内容に問題がない場合「支援確定」をメールにて連絡  
④ 実施：代表者が参加者の現住所を確認、レポート作成  
⑤ 提出：実施後2週間以内にレポートと参加者名簿を事務局へ郵送  
⑥ 支払い：代表者へ振込

## 空手道部



空手道部は、同窓会の皆様をはじめ、教育後援会及び大学のご支援のおかげで体育会に所属し、5年目を迎えることとなりました。

部員数も38名の大所帯となり道場（マルチルーム）も手狭に感じられるようになりました。本年度は「2012年飛躍の年」をテーマに、主将の上田航（経済学科4年）を中心とし、1つでも上を目指し部員一同、精神面・技術面等の強化を図り日夜稽古に励んできました。

本年度の大会では、5月20日に行われた第40回関東学生空手道個人選手権大会男子組手競技において、上田主将が優勝する等の活躍もあり、全国での知名度も向上してまいりました。

また、11月18日に行われた今年度最後となる第56回全日本大学空手道選手権大会では、男女共に組手団体戦に出場しましたが、良い成績を残せず大変悔しい思いをしています。

現在、次年度に向け新チームとなり、より一層チーム力の向上と精神面・技術面等を強化し、今まで以上に良い成績を残せるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（監督 上妻優介）

## サッカー部



監督として4年目となり、1年生から指導してきた選手たちが初めて4年生となった今年は、春季リーグ1部6戦全勝し優勝。千葉県大学サッカー選手権でも優勝。夏季休暇中にはサッカー部初となる韓国遠征を行い、満を持して迎えた秋季リーグでした。3勝2分の首位で最終節を迎え、2位の中央学院大学戦に引き分け以上で本学の優勝が決まる試合でした。前半共に猛攻を仕掛ける本学でしたが、守備を固める相手に1点が遠く、逆に相手のワンチャンスから失点し、0-1の敗戦となりました。

監督となってから初めてホームゲームでの敗戦となり、5連覇中の秋季リーグ優勝を逃す苦しい年となってしまいました。しかしながら4年生はもちろん、1・2・3年生も最後まで全力で闘ってくれた選手たちは、私の誇りです。

（監督 八津川義廣）

## from 体育会

～陣頭指揮をとる監督からのメッセージ～

## ヨット部

特別強化団体として、5年目を迎えた明海大学体育会ヨット部にとっては、2012年はまさに「飛躍の年」であった。ロサンゼルス、ソウルオリンピックに出場し、今年3月にニッポンチャレンジチームで活躍してきた脇永達也氏をコーチとして迎え、新体制でスタートした4月の春季関東学生ヨット選手権は総合3位（470級2位・スナイプ級6位）と好調に滑り出し、関東チャンピオンとして君臨してきた早稲田大学を抜く快挙。続く関東女子学生ヨット選手権大会では、470級6位、スナイプ級3位で総合4位と好成績を収め、「全日本インカレ出場」を目標として強化をしてきた結果が表れた。

6月には、470級・スナイプ級の各クラス別関東選手権大会が江ノ島を会場に開催され、関東470級選手権大会では、ナショナルチームの選手相手に宮崎俊介・山口貴之組が4位、波田地由佳・後藤龍祐組が8位で、関東女子470級選手権大会の出場権を獲得した蛸原梢・澤田しおり組が2位で、それぞれ全日本470

級選手権大会の出場権を獲得した。

9月・10月には、秋季関東学生ヨット選手権大会兼全日本学生ヨット選手権関東水域予選を総合5位で突破、11月1日から4日まで滋賀県大津市（琵琶湖）で開催された第77回全日本学生ヨット選手権大会に出場、前半総合3位で折り返すも、失格等により最終成績は470級15位、スナイプ級9位、総合11位の成績に終わった。

今回、念願の全日本インカレ両種目（470級・スナイプ級）出場は、明海大学にとって新たな歴史を築いたこととなる。ここに至るまで多大なご支援・援助をいただいた大学および同窓会・教育後援会の皆様には心から感謝を申し上げ、次年度につなげたいと思います。

（監督 國府田由隆）



## 編集後記

一期生の3人が語る座談会いかがでしたでしょうか。若輩者の私には、先輩方の想いがとても感じられる内容でした。何も無いところから始まった大学生活、そして自ら歩む道を切り拓く「フロンティア精神」、そこから「わが子を行かせたいと思う大学に」とはつきりと示してくださいました。社会に出てもおその精神があるからこそ活躍されているのでしよう。また一期生だからこそ、何よりも明海大学を愛し、誇りに思う。大学改革に同窓会の意気込みを感じました。卒業生の皆さん、ぜひとも色々な方たちで大学を盛り上げていきましょう。大きく変えることはできませんが、皆さんの「フロンティア精神」を結集させて歩みを加速させていきましょう。

さて、私はいえ、2012年の8月に就職支援から異動となり、学事課（教務担当）で仕事をしております。新しい環境で仕事を始めて4か月が過ぎました。違った視点から大学を見ることができています。教員のかかわりが非常に強く、大学らしさというものを改めて感じていきます。何よりも卒業生が思っているのと同じように、教員も大学を考えていますし、情熱をもって学生に接しています。一期生が感じた先生方の姿勢は今も変わってはいません。先生方の力になれるよう、また新しい自分を築くため、日々、悪戦苦闘しております。

最後にラグビー部の話も：私の自慢のチームです。彼らの強さ、それは心が折れない！そこだと思っております。私も一緒に戦う、いつか国立の舞台に立つ。そう信じて彼らを見守っていきたく思います。

（熊沢基之）